

# 競技注意事項（申し合わせ事項）

## 1. 競技について

- 1) 本競技会は、平成23年度日本陸上競技連盟規則及び本大会の申し合わせ事項によって行う。
- 2) 本陸上競技場は、IAAF(国際陸連)Class-2に認証されており、レーン幅(1.22m)やマーキングは国際規格である。スタートラインやリレーゾーンマーキングは国内仕様と異なるため注意すること。また、スパイクピンは9mm以下、ただし、走高跳とやり投については12mm以下を使用すること。
- 3) 800m以上(4×400mリレー競技は第4走者のみ)のトラック競技出場者は、腰用レーンナンバー標識を使用する。また、5000mはオーダー(通し)ナンバーカードを使用する。これらは招集時に受け取り、フィニッシュ後に返却すること。
- 4) スターターの合図は英語とする。不正スタートについては、各レースでの不正スタートは1回のみとし、その後不正スタートした競技者は、すべて失格とする(規則162条7参照)。
- 5) 短距離種目では、競技者の安全確保のため、フィニッシュ後も同じレーンの曲走路を走ること。
- 6) 男子5000m競走では、気象状況に応じて、バックストレート側に給水を用意する。
- 7) リレー競技について：規則第170条を理解し、規則違反が生じないように注意すること。
  - a) メンバー編成は、予選決勝とも2名はリレーに申し込んだ競技者でなければならない。これ以外は、本大会に申し込んでいる競技者であれば出場できる。決勝では2人以内に限り交替できる。
  - b) オーダー用紙は、予選、決勝とも招集時刻の1時間前に招集所競技者係へ提出すること。
  - c) ブルーゾーン及びテークオーバーゾーンのラインを、次走者が踏む又は接し走り出すと失格となる。
  - d) 4×100mRの第2,3,4走者が使用する粘着テープ(最大50mm×400mmのマーカー)は、各ゾーンの出発係から受け取る。これ以外のマーカーを置くことは許されない。
  - e) 男子4×400mRの第3,4走者は審判員の指示に従い、前走者が200mスタート地点を通過した順序で、内側より並び待機する。その後、この順序を維持しなくてはならず、バトンを受け取るまで入れ替わることは認められていない。違反した場合は、そのチームが失格となるので注意すること。
- 8) 走高跳のバーは、競技者が最後の1人になり優勝が決まるまでは次のとおりとする。但し、気象状況等により審判長の判断で変更する場合もある。また、下記以外の公式練習の高さは、審判長が判断する。

男子：練習1.65m、競技開始1.70m、1.75m、1.80m、1.85m、以降3cm刻みとする。  
女子：練習1.30m、競技開始1.35m、1.40m、1.45m、以降3cm刻みとする。
- 9) 競技に使用する器具は、すべて主催者側が用意したものを使用すること。
- 10) 抗議と上告は規則第146条により行うこと。競技結果または行為に関する抗議は、結果発表後予選は15分以内、決勝は30分以内に、競技者自身または監督から審判長へ口頭で行う。

## 2. 棄権、招集およびリレーのオーダー用紙について

- 1) 棄権する場合は、招集時刻前に招集所競技者係に申し出ること。
- 2) 招集所は競技場スタンド北側(100mスタート地点)器具庫横に設ける。
- 3) 招集は、**トラック競技：競技開始15分前、**  
**フィールド競技：競技開始30分前、**但し、円盤投とやり投は競技開始50分前とする。
- 4) 招集に遅れた者及びリレーのオーダー用紙提出が遅れた場合は棄権とみなし処理する。
- 5) 他種目と兼ねて出場する者は、その旨を競技者係および各競技審判員に申し出ること。
- 6) 競技者の入退場は、係員の指示に従うこと。

## 3. 練習について：練習は原則として補助競技場を使用する。砲丸投以外の投擲練習は禁止する。

- 1) 練習は審判員の指示に従い安全面に十分注意すること。投擲練習は、引率者等が必ず付き添うこと。
- 2) 補助競技場は1周300m第4種競技場で、走路はクレー舗装、走路一部と跳躍は全天候舗装である。
- 3) 補助競技場での砲丸投以外の投擲練習は禁止する。今回、投擲練習場が使用できない為、円盤投とやり投については招集時間を早め、試合ピットで練習できるようにする。
- 4) メイン・補助競技場での練習使用可能時間は次のとおりである。

26日(金)：メイン競技場 9時00分～18時 補助競技場 9時00分～18時  
27日(土)：メイン競技場 8時30分～12時30分 補助競技場 8時00分～18時30分  
28日(日)：メイン競技場 7時30分～9時 補助競技場 7時00分～18時
- 5) メイン競技場での投擲練習使用可能時間は次のとおりである。

	円盤投	やり投
26日(金)	9:30～11:30、13:30～15:30	11:30～13:30、15:30～17:30
27日(土)	9:00～11:00	11:00～12:30、17:20～18:20
28日(日)	—	7:30～9:00

#### 4. その他

- 1) 表彰は各種目 3 位まで行う。該当者(代理可)は表彰予定時刻を確認し、表彰者控え席に集合すること。なお、状況により表彰予定時刻が変更になる場合にはアナウンスで連絡する。
- 2) 競技中の負傷については、医務員が応急処置を行うが、その後の処置は各校で行うこと。
- 3) 出場する競技者・補助員以外は競技場内（トラックと同一面のエリアを含む）に立ち入らないこと。
- 4) 応援はスタンドで行い、競技場内や雨天走路及びメインスタンドでの集団応援は禁止する。
- 5) ビデオ装置、ラジオ、携帯電話、その他通信機器、ヘッドフォン等は競技場内に持ち込んではいけない。
- 6) 競技場の中に商品名のついた衣類・バッグ類を持ち込む場合は、「競技会における広告および展示物に関する規程」（2011 年 3 月修正）のとおりとする。以下、一部を抜粋する。
  - a) ウインドブレーカー・Tシャツ・トレーナー類  
製造会社名／ロゴ：右胸または左胸 1 ヶ所、文字の高さ 4cm 以内、トータルのロゴの高さ 5cm 以内で面積 40cm<sup>2</sup>以内の長方形とする。
  - b) 下半身のタイツ等 製造会社名／ロゴ：1 ヶ所、文字の高さ 4cm 以内、面積 20cm<sup>2</sup>以内とする。
  - c) ソックス 製造会社名／ロゴ：1 ヶ所、高さ 3cm 以内、面積 6cm<sup>2</sup>以内とする。
  - d) バッグ類 製造会社名／ロゴ：2 ヶ所、面積 25cm<sup>2</sup>以内とする。
  - e) その他の衣類（帽子、ヘッドバンド、サングラス、手袋、リストバンドなど）  
製造会社名／ロゴ：衣類（製品）1 つにつき 1 ヶ所、面積 6cm<sup>2</sup>以内とする。
  - f) 競技者の衣類が本規程に適合しない場合、それを覆うか無印の衣類を身につけること。
- 7) テントの設営は、正面スタンドは禁止とする。横断幕、のぼり等についての制限は特にないが、競技進行、観客の支障にならないよう配慮すること。競技役員から指摘された場合は、その指示に従うこと。また、各校ベンチの場所取りは、観客へも配慮し必要以上に広い面積を独占しないこと。荷物等の放置による盗難等への対応は、主催、主管及び競技場側は関与できないので注意すること。
- 8) ゴミは原則として各校で必ず持ち帰ること（ゴミ袋は学校受付の際配布する）。
- 9) 競技結果速報は、競技場正面入口に掲示する。また、速報およびその他大会に関する情報は、裏表紙の Web サイトにて携帯電話等から閲覧できる。大会速報（各レース終了後）の各高専配付は中止し、決勝記録一覧のみ閉会式終了後に配付する。
- 10) トラック競技出場競技者の荷物搬送（スタート地点からフィニッシュ地点まで）は行わない。

以上

#### 全国大会に関する申し合わせ事項（専体協陸上競技専門部）

- (1) 平成 21 年度のタイムスケジュールを概ね踏襲する。
- (2) 開会式を初日に開催する。5000m を初日に行う。フィールド 1 日目に走幅跳、2 日目に三段跳を行う。
- (3) 2 日目男子三段跳は、男子走高跳終了後、及び女子走幅跳終了後に行う。男子やり投の開始時間を下げる。
- (4) 競技開始時間、招集時間の最終決定は開催校が決定するが、競技順は変更しない。
- (5) 開催校枠の出場選手は、地区大会に出場した選手に限る。
- (6) 番組編成は、日本陸連競技規則により開催校が行う。各校には番組編成の結果のみ通知し、誤字などの訂正のみを受け付けることとし、編成上の問題点については、専門部委員長あるいは専門部の判断で最終決定する。
- (7) 予選組み分けは、同一校の選手を同一組にしない。また、同一組に同一地区が入ることは考慮しない。
- (8) 警報発令時の対応は「臨時専門部会議」にて決定する。短縮タイムテーブル開催など。
- (9) オープン種目は、男女 200m、男子 1500m、女子 4×100m リレー、女子 100mH、女子走高跳の 6 種目を行う。
- (10) H22 年度の反省を踏まえ、H23 年度から女子円盤投を加えた。この種目の試技数は 3 回とする。
- (11) オープン種目出場資格は、原則全国大会出場者であるが、本大会への影響を及ぼさない限り出場を認める。ただし、男子 200m は最大 10 組程度まで、男子 1500m は最大 4 組程度までとする。制限数を超える場合は、各校へ連絡をとり相談の上決定する。オープン種目設定については専門部で審議した結果を最終決定とする。
- (12) 専門部会議では次年度大会についての審議を行うこととする。
- (13) 高度化再編された高専及び都立高専は、キャンパス単位で出場する（H22 年、H23 年 3 月専体協総会で決定）。
- (14) 警報時の対応について（気象警報には暴風・大雨・洪水・雷・津波等がある）  
基本的には第 46 回全国高専体育大会実行委員会の決定に従う。以下は、第 42 回大会(H19)から引き継いでいる。
  - a) 大会当日 朝 6 時：警報が発令されている場合→大会遅延  
朝 8 時：警報が解除された場合→大会開催。解除されない場合→中止・延期について協議する  
大会開始後：警報が発令された場合→大会の中断・中止・決行について協議する。
  - b) H23 年度大会の延期可能日について：最大 8 月 29 日(月)12 時までとする。  
実施方法については、主催者、主管および陸上競技専門部で協議する。
    - ・ 8 月 27 日(土)・・・中止の場合：28 日(日)終日と 29 日(月)12 時までの変更競技日程で実施する。
    - ・ 28 日が中止の場合：29 日(月)12 時まで実施の方向で検討する。
    - ・ 27 日と 28 日が中止の場合：大会は中止とする。

(以上、H23 年 3 月までの専体協総会、陸上競技専門部決定事項)